

---

# 発達理論の学び舎

Back Number: Vol 280

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」

---



---

## 目次

- 5581. 今朝方の夢
- 5582. 今日の読書と次回の長時間の座禅瞑想について
- 5583. 今日の振り返り
- 5584. クレー美術館に訪れる計画
- 5585. 今朝方の夢
- 5586. 起床直後のビジョン:「ムービー・ヨガ」の実践
- 5587. ポール・クレーの日記:ベルン・アスコナ・ドルナッハ訪問に向けて
- 5588. 今朝方の夢
- 5589. 親友のメルヴィンが示してくれた新たな方向性:ダンスへの関心
- 5590. 踊りへの目覚め
- 5591. 4月に購入予定の書籍
- 5592. 志向性を持つ心身:組織や社会の病理に関する探究の新たな方向性
- 5593. リアリティを構成するリズム:ダンスセラピーと個人と集団のサイコダイナミクスに関する書籍
- 5594. 今日のダンス実践と作曲実践:パターン認識に適した意識状態の生成とコラージュ的作曲実践
- 5595. 世界の民族舞踏への関心:ボディ・マインド・センタリングの再探究
- 5596. 現代精神分析学の探究に向けて:家畜化・ゾンビ化する人間
- 5597. 不思議な縁:Yantraという店
- 5598. 身の回りに溢れる宗教的な品々:今朝方の夢とコラージュ的な曲
- 5599. 今朝方の夢
- 5600. 今週末の予定:グスタフ・レオンハルトとジローラモ・フレスコバルディ

昨夜は雪が降った。久しぶりに雪が降るのを眺めた感じがする。昨年末から今年にかけて、昨夜の雪を合わせても、まだ2回ほどしか雪を見ていないように思う。しかもそのうちの一回は、みぞれのようなものだったから雪と述べて良いのかわからないぐらいのものだった。それくらいに、異常なまでに今年には雪が降っていなかった。昨夜から一夜が明け、午前6時を迎えた今の段階ではもう雪が降っていない。

静けさに包まれた外の世界を眺めながら、今朝方の夢を振り返っている。夢の中で私は、小中学校時代を過ごした社宅のアパートの自室にいた。自室は畳部屋であり、畳の上に寝そべって、天井を眺めながらぼんやりとしていた。すると少しばかり眠気がやってきて、覚醒状態と睡眠状態の狭間にいるような感覚になった。

すると、夢か現実か区別がつかない形で、自分のお腹の上に小さな猫が数匹いることに気づいた。見た目の異なる猫たちは仲が悪そうであり、お腹の上で喧嘩をし始めた。私は、喧嘩のとぼっちりを受けて自分のお腹が引っ掻かれるのが嫌だったので、猫をそっとお腹から地面に下ろそうと思った。すると、猫たちが小さな虫に変化した。それらは小さな亀虫や羽蟻のような虫に変わったのである。

私はどういうわけか、殺虫剤をかけてそれらを殺さなければならぬと思った。手元にあった殺虫剤を虫たちに向け、ほとんどがすぐに死滅した。だが1匹だけ難を逃れたようであり、まだ生きていたのだが、それにもさらに殺虫剤をかけて、虫を全て退治した。

そこで夢の場面が変わった。次の夢の場面では、空港とホテルが直結した建物の中に私はいた。最初私はカフェでくつろいでいて、しばらくパソコンをいじった後に、パソコンを鞆にしまい、鞆を席に置いたままカフェを離れた。気分転換に空港内を散策しようと思ったのである。

空港内を散策していると、そこはホテルだけではなく、オフィスビルとも直結しており、名だたる大企業が入ったオフィスビルの1Fに到着した。どうやら今から、ある日系企業の人事部長の女性がCNNのようなアメリカ系のニュース番組に出演するらしく、私はそのインタビュー番組の収録場所に行ってみようと思った。

---

---

すると、その女性部長が1Fで待っており、対談相手の米国系企業のアメリカ人の男性が1Fまで彼女を迎えにやってきた。その女性部長はこれからアメリカ系のニュース番組で対談をするはずなのだが、あまり英語が話せないようであり、迎えにきた男性にお礼の言葉すらも述べることなく笑顔を振りまいているだけであった。

2人が2Fに行こうとしていたので、私も彼らについていくことにした。対談が行われる米国系企業のオフィスに到着したとき、その女性部長はガラス扉を自ら開け、勝手に中に入っていこうとした。しかも、後ろからは迎えに来た対談相手の男性が歩いて扉の方に向かってきていたにもかかわらず、彼のために扉を開けたまま待つことなく、気の利かない態度を示していた。英語も大して話すことができず、それでいてそのような態度を取る女性部長の対談を聞いても仕方ないと思った私は、その場を去って再び空港内を散策しようと思った。

2Fから1Fに行くためにエレベーターを使おうと思っていたところ、中国人の2人の男性と遭遇し、彼らも下に行きたいようだった。だが彼らはエレベーターの横にある壁に埋め込まれたボタンを押し、隠し部屋のような部屋の中に消えて行った。彼らが消えていく姿を眺めているとエレベーターがやってきて、それに乗り込んでみたところ、それは上の階に向かうものだった。一度私は9Fまで上がり、そこからまた1Fに向かってエレベーターで降りた。

再度散策を始めてみたところ、通りかかった団子屋で美味しそうな団子が売られていることに気づいた。よもぎ色をした団子が特に美味しそうであり、それを購入しようかと思ったら、自分の手元にすでによもぎ団子があった。それをどこで購入したのかわからなかったが、とりあえず昼食用の食べ物が自分の手元にあるようだったので、再びカフェに戻ることにした。

カフェにパソコンが入った鞆を置いたままにしているため、それらが盗難されないようにできるだけ早く戻ろうと思った。すると途中でスーパーのような店があることに気づき、店内を突き抜けていけばショートカットできると思われたので、店の中に入っていった。女性の店員が野菜や刺身などを並べている横を通ろうとしたところ目が合ったので、軽く挨拶をした。魚売り場で男性の店員が威勢の良い声を上げて、客に呼びかけをしている姿が遠くから見えた。フローニンゲン:2020/2/29(土)

06:28



昨夜、フランスの作曲家ピエール・ブーレーズの書籍“Pierre Boulez Music Lessons: The College de France Lectures”を読み終えた。本書は650ページほどの大著であり、洞察に溢れる記述が随所に合ったので、初読をするのに2日かかった。得られた洞察を温め、書籍を少し寝かせておいて、どこかのタイミングでまた再読をしたいと思う。

昨日午後に買い物から自宅に帰ってきたとき、自宅の前に郵便局の車が止まっていることに気づいた。その日にアメリカから書籍が届く予定だったので、きっと自分宛の荷物だと思い、足早に自宅の前に向かった。女性の郵便局員が手荷物を持った状態でちょうど自分の家の扉から隣の扉に移るところだった。私は笑顔でその郵便局員に声をかけ、向こうも笑顔で私の挨拶に応じた。

彼女が手に持っていたのは予想通り、アメリカの書店から私宛に届けられた書籍だった。とても良いタイミングで自宅に戻ってきたと思い、その郵便局員にIDカードを提示し、私は自宅の外でその荷物を受け取った。届けられた書籍は、ケンブリッジ大学出版から出版された“The Cambridge Handbook of Consciousness”というものである。ここ最近ではオックスフォード大学出版から出版された論文選集を随分と読んでいたことを記憶している。

昨日届けられた書籍は、索引を含めると1000ページほどある。収められている論文だけで言えば、900ページほどのものだ。昨夜の段階でどのような論文が収められているのかタイトルだけざっと確認し、特に面白そうなものには印を付けておいた。今日からは本書の初読に取り掛かる。本書のような良質な学術書は、どこか良質なオーガニック食品のように思えてくる。世間には低品質の食材及び書籍が溢れており、そうした中で良質な食材や書籍を選び抜いていく目が必要だ。そのようなことを改めて思う。

数日前にアテネ旅行の各種予約を終えたこともあって、今日も旺盛に読書と創造活動に励むことができるだろう。アテネでは遺跡巡りだけでなく、古書店巡りもしたいと思い、調べてみたところ、市内には随分と多くの古書店があることに気づいた。それを受けて、古書店だけを巡る日を設けても良いかもしれないと思ったほどである。現実的には、博物館や遺跡を巡った帰り道に何店か立ち寄っていく形で古書店を巡ってみようかと思う。また、アテネから戻ってきた翌日かその週末に、久

---

しぶりに長時間座禅瞑想をしようかと考えた。前回長時間座ったのはいつか覚えていないほどだが、その時には意識が随分と深まり、思わぬ形で魔境に入り込んでしまったのを覚えている。その時の知覚体験が強烈なものであったので、金輪際座禅をするのをやめようと思ったのだが、またしても座る必要性が出てきたように感じたので、アテネから戻ってきたタイミングで座ってみようかと思う。ヴェネチア旅行の後に14日間ほどの断食を突如行なったように、旅は何かのきっかけになる。今回で言えば、長時間座禅をすることを自分に促しているかのようだ。フローニンゲン:2020/2/29 (土)06:49

### 5583. 今日の振り返り

時刻は午後8時に近づいている。今日は午前中から晴れ間が見えていて、正午前に近くの運河沿いのサイクリングロードを軽くジョギングした。今日のように太陽が出ている日には、先日述べたように、できるだけ日光浴をするようにしている。

今日のジョギングで言えば、腕の関節部分や手の平に日光を当てて、太陽エネルギーを身体に取り入れることをした。天日干しされた椎茸が何倍にもビタミンDを増やすのと同じで、私たちも適度に日光を浴びることによって、体内でビタミンDを生成することができる。もちろん、紫外線の害を考えると、長くは日光を浴びることはできないが、手の平などの紫外線の影響を受けにくい部位に太陽の光を当てることだけでもビタミンDを体内で生成できるらしい。太陽の光を浴びた日は、いつも以上に快眠を取ることができるのも太陽光がもたらす脳内物質と関係している。やはり脳も太陽の光を浴びることを喜んでいるようだ。

今日も読書と創造活動に打ち込むような1日だった。今日は一気呵成に、900ページほどの“The Cambridge Handbook of Consciousness”を読み通した。事前に全体を確認した時に興味深いと思った論文以外にも、いくつか面白い論文を見つけることができた。初読時に得られた知識事項を少しばかり寝かせておこう。今回の読書によって、人間の意識に関する先端研究と議論の土地勘を大まかに掴むことができたので、再読はより容易になるだろう。

集中的に書物を読み、その後文字通りどこかに旅に出て、読書で取り込んだ知識を旅の最中に体系化させていくことを行っている自分がいる。3月末のアテネ旅行に向けてもう少し時間があるた

---

め、旅の出発日まで集中的な読書が続けていく。旅に持たせる意味は様々であり、それらの意味も変化していくのだが、旅をしていない時に集積した知識を咀嚼及び体系化するために旅に出かけるという意味が生まれた。

旅の最中は基本的に書物から離れることが多いので、それが咀嚼と体系化に役立っている。前回のマルタ旅行・ミラノ旅行を通じてそれを実感した。大まかに言えば、この9年間ほどは意識構造についての探究を行ってきた。今はもっぱら意識状態に関心に移り、その探究を日々行っている。

アテネ旅行の前か、旅から帰ってきてから行う長時間の座禅瞑想は、意識状態の探究の一環として行う。その体験を通じて得られた発見事項を、既存の研究成果と照らし合わせたり、自分なりの新たな実践を組み立てることにつなげていく。

明日からいよいよ3月を迎える。3月もまた充実した月になるだろう。フローニンゲン:2020/2/29(土)  
20:07

#### 5584. クレー美術館に訪れる計画

—芸術とは目に見えるものを再現するのではない。目に見えないものを目に見えるようにするのだ—  
—ポール・クレー

時刻は午前6時半を過ぎた。今日からいよいよ3月だ。3月になっても気温は相変わらず低いが、日の出の時間が速くなっているのを実感する。

今もうすでに、空がダークブルーに変わり始めており、日の出を迎える準備が整いつつあるのを感じる。3月最初の日曜日である本日も充実した1日になるだろう。

今日は予定通り、夕方あたりから書籍の再吟味と注文を行いたい。今のところ購入リストにかなりの書籍が並んでいるため、それらの書籍の目次や概要をアマゾンの購入画面から確認し、30～40冊程度にまで絞り込んでいきたいと思う。今回購入する書籍も分野としては多岐に渡っており、前回大量注文した時と重なる領域も多分にある。今回の注文時には購入しないが、次回4月か5月の時にまた書籍を注文する際には、シュタイナーの経済思想に関する書籍を何冊か注文しようと思う。

---

今日もまた、目には見えない内的感覚を曲の形にしていく取り組みに従事する。スイスの画家ポール・クレーの言葉を思い出そう。音楽にも造形の深かったクレーの作品を実際にこれまで何度か目にするのがあり、そこに音楽的な何かを感じるがあったのを覚えている。ふとした思いつきだが、今度スイスのベルンにあるクレー美術館に足を運ぼうと思う。この美術館には4000を超えるクレーの作品が所蔵されている。ベルンにはその他に訪れてみたい美術館があり、どのような街なのかについても関心がある。

ベルンを訪れる際にはその足でバーゼルに行き、バーゼル郊外にあるドルナッハに行き、シュタイナーが建築したゲーテアヌムを見てきたい。また可能であればせつかくなので、精神科学自由大学の関係者や教授にアポイントを取り、シュタイナーの思想やこの大学のプログラムについて色々話を伺ってみようと思う。

クレーに関して言えば、クレーもまた日記を熱心に綴る人間であったことに共感の念を覚える。クレーは音楽への関心のみならず、文学や詩に対しても関心を持っており、日記には詩を書き留めていたりもしたそう。それ以上にクレーにとって日記が重要だったのは、日記を通じて、絵画や芸術に対する自らの思想や方法論を言語化し、それを彫琢していったことだろう。それはさながらゴッホに似ている。ゴッホは日記のように手紙を綴り、弟のテオと手紙のやり取りを最後まで続けた。

クレーの画風に対する関心とクレーが日記を熱心に執筆していたことへの関心を受けて、やはり一度クレー美術館には足を運ぶ必要があるだろう。この夏にはアイスランド、アイルランド、スコットランドなどへ旅行する計画を立てようと思っていたが、ベルン、バーゼル、ドルナッハ旅行にしてもいいかもしれない。フローニンゲン:2020/3/1(日)07:12

#### 5585. 今朝方の夢

気がつけば時刻は午前7時半を迎えようとしている。今は雨が降っておらず、曇り空ではあるが、辺りはもう明るくなっており、穏やかだ。小鳥たちの清澄な鳴き声も聞こえてくる。

早朝にクレーについて書き留めていたように思う。クレーは生涯で10,000点ほどの作品を残した多作家であった。クレーがそのような数の作品を残したことにも感銘を受けるが、クレーが小さい作品を無数に積み重ねていたことにも感銘を受ける。確かにクレーの作品の中には比較的大きなものも



---

あるが、大部分は小さな作品とのことである。クレーの生涯を辿ってみた時に、クレーは原因不明の難病を患い、そこから復帰を遂げ、死の一年前に創作的な爆発体験をしたことがとても興味深い。死の一年前の1939年には、なんと1253点もの作品を創作したそうだ。

平均して毎日3点以上の作品を作り続けた1年がクレーにあったこと。その創作的爆発体験についてより詳しく知りたくなった。やはりこの夏はベルンに訪れ、クレー美術館に足を運んでみよう。

それでは今朝方の夢について振り返りをしてから早朝の作曲実践に取り掛かりたい。夢の中で私は、実際に通っていた小学校の教室にいた。そこは確かに小学校だったのだが、教室の大きさは実際に通っていた中学校の教室のようでもあった。教室には生徒はあまりおらず、友人たちがまばらに数名ほどいた。しばらくして、高校時代にお世話になっていた国語の先生が教室に入ってきて、今から模擬試験を行うと述べた。

私たちは席に着き、配られた問題を解き始めた。すると突然大雨が降ってきて、教室の後ろの扉を勢いよく開く音がした。振り返ると、そこには小中高時代の女性友達(AO)がいて、何やら手伝ってほしいことがあると言う。話を聞くと、これから何人かの友人たちが外から隣の教室に荷物を運んでくるので、荷物の搬入を手伝ってほしいとのことだった。彼女はとても真剣な顔をしていて、切迫した雰囲気でもあったので、私は快諾し、隣の教室に向かった。

すると、すぐに何人かの友人たちが大雨でずぶ濡れになりながら外から重たそうなスーツケースを引いてこちらにやってきた。友人の中には自分でスーツケースを教室に搬入する者もいたが、私は1人の友人(KS)の手助けをすることにし、彼のスーツケースを教室に搬入した。

搬入作業が無事に終わり、そこからまた模擬試験の続きを受けることにした。搬入作業があったので、追加で時間をもらう必要があると思い、解いていた現代文の問題文をまた最初から読んで読解のペースを掴むには少々時間がかかるかと思った。

先ほどの教室に戻ろうとしたところ、今いる教室の後ろの席で、大学時代の何人かの友人とゼミの友人(TA)が、小学生用の算数の問題と塗り絵を組み合わせたような問題に取り組んでいた。ちょっと面白そうだったので、どのような問題か眺めていたところ、その場にた3人の解答が微妙に異なり、塗り絵の色が違うことが興味深く思えた。そこで夢の場面が変わった。

---

---

次の夢の場面では、私はサンフランシスコのような港町にいた。そこで大学時代のサークルのある先輩と話をしていた。その先輩は新卒で投資銀行に入社し、金融関係の仕事をしていたのだが、今は広告代理店でマーケティングに関する仕事をしているそうだった。ひょんなことから先輩の年収の話になり、給料を聞いたところ、当たり前であるが、世間の平均年収を遥かに超える給料をもらっているようだった。

しかし、会社勤めをしている限り、それぐらいの収入しか得られないのだろうとも思った。また、肉体や精神を擦り減らしてまでして、それぐらいの収入しか得られないというのは問題があるのではないかと思った。そのようなことを考えながら、先輩が仲の良かった別の先輩の近況について話を伺った。その先輩も私に良くしてくれていた方であり、数年前にニューヨーク勤務になり、そろそろ4年が経つ頃かと思った。確か駐在期間は4年だったと思うので、もうしばらくしたら日本に戻ってくるのだろうと思ったところで、私の体は建物の外にいた。

港からカモメの鳴き声が聞こえてくる。潮風が優しく頬を撫で、潮風のほのかな香りが漂っている。

私はぶらぶらと港を散歩することにした。すると、私はふらふらと近くにあった化粧品か何かの店に入り、その店を通り抜ける形で反対側の通りに出ようと思った。すると突然、小中学校時代の友人(YK)が現れ、彼が店員の外国人女性数名と話を始めた。店員の女性たちは英語を話すようだが、彼女たちは米国人や英国人ではなく、オランダ人のようだった。そうであるにもかかわらず、友人はなぜか片言のイタリア語を交えて彼女たちに話しかけていた。そのような夢を見ていたのを覚えている。フローニンゲン:2020/3/1(日)07:46

#### 5586. 起床直後のビジョン:「ムービー・ヨガ」の実践

時刻は午前6時半を迎えた。今朝方起床した時に、サトルの意識状態が色濃く残っており、目を閉じるとそこにめくりめく変化するビジョンが知覚された。そのビジョンの大半は書籍であり、書籍のページが次から次にめくられていくビジョンが映し出されていた。

どのような内容の書籍なのかは全くわからなかったが、サトルの意識状態の中でビジョンとして書籍が現れることは多く、最初にこれを知覚体験したのは大学生の頃だったと思う。こうしたビジョンが現れると、それに対して思考を巡らせることなく、単にそれを眺めるようにしている。今日もビジョンが全

---

て消えるまでそれを眺めていた。このビジョンが現れたのはひょっとすると、昨夜書籍を大量注文したからかもしれない。大量注文と言っても20冊程度だが、文献購入リストから購入すべき書籍を吟味していたことが今朝方のビジョンに影響を与えたのかもしれない。

昨夜は結局、50～60冊ほどの文献購入リストから20冊まで絞り込んだ。今回の書籍の分野も多岐に渡っており、意識状態、音楽心理学、音階理論、催眠と政治経済、音階とメロディーの百科事典、トランスと音楽、魔術と超心理学、身体心理学などの分野である。

今回はアメリカの書店から注文することではなく、イギリスとドイツの書店に注文をした。前回はドイツの書店から多く書籍を購入したが、今回はイギリスの書店から購入する書籍の方が多かった。注文した書籍は早いもので明日・明後日に届き、全ての書籍は再来週までには届く予定である。幸いにも、アテネ旅行の前に全ての書籍を受け取ることができそうだ。

昨日の午後は久しぶりに読書や創造活動から離れていた。日曜日の午後ぐらいはこのように読書や創造活動から離れてもいいかもしれない。天気が良いければいつもより長く散歩やジョギングを楽しんだり、映画を見たりするのもいいかもしれない。ここ最近は映画をほとんど見ておらず、それでいて気になる映画がいくつかあるので、日曜日の午後は映画を1、2本観賞することを今週末から行ってみようかと思う。純粹に映画を楽しむことに加えて、ジョン・エフ・ケネディ大学時代に行っていた「ムービー・ヨガ」の実践を試してみようかと思う。

これは映画を題材にして自分の意識や無意識の世界を探求し、それらを治癒・変容させていく実践である。この実践技法に関する書籍は実家に置いたままであるが、実践手順はまだ覚えているため、今週末に映画を見る際には是非ムービー・ヨガを行いながら映画を楽しもう。

昨日の午前中に作曲実践をしていると、曲を作りながら癒されている自分があることに改めて気づいた。やはり創造活動は治癒を促す働きがあるようだ。

創造物には時として、シャドーの投影が色濃く現れることがあり、創造物から自らのシャドーを探求する道がある。自分の内側の感覚を形にすることがシャドーの対象化につながっており、それが治癒をもたらすことにつながりうることを再認する。今日の作曲実践においても、そうした治癒を実感

---

することになるかもしれない。引き続き、創造活動がもたらす治癒と変容の作用について、体験を通じて考えを深めていこう。フローニンゲン:2020/3/2(月)07:02

### 5587. ポール・クレーの日記:ベルン・アスコナ・ドルナッハ訪問に向けて

時刻は午後8時を迎え、今は小雨が降っている。夕方までは雨が降っていなかったのだが、夕方以降に雨が降り始め、今に至る。今週も大抵天気が悪く、かろうじて土曜日だけ晴れマークが付いている。

昨日少しばかり午後に休憩をしたおかげか、今日の読書と創造活動は随分とはかどった。やはり週に一度、数時間ぐらいは休憩を試してみるのもいいものだと思改めて思った。今週の日曜日の午後は、映画を2本くらい見ようと思う。

直近の日記で書き留めたように、ポール・クレーの作品を見に、この夏はスイスのベルンに訪れようと思う。ベルンにあるクレー美術館を訪れ、クレーの生涯と作品を辿っていく。クレーに対して突然関心を持ち、昨日すでに20冊ほど書籍を購入したが、本日は追加でクレーの日記“The Diaries of Paul Klee”を購入した。クレーは森有正先生や辻邦生先生のように、日記を通じて自らの思索を深め、絵画の思想と技術を高めていった。その点に関心があるだけでなく、クレーが生きていた時代を彼自身がどのような眼で眺め、何を感じていたのかを理解したいと思う。クレー美術館を訪れる予習がてら上記の日記を読み、ベルンの街についてはまた改めて調べてみよう。

スイスに訪れたのはもう今から3年半ほど前のことになる。あの時も夏だった。その時は、ピアジェの生誕の地ヌーシャテルに滞在し、ピアジェの過ごした街の風に吹かれること通じてピアジェを理解しようとしていた。今回はクレーである。

せっかくなのでベルンだけではなく、過去にエラノス会議が開かれていたスイスのアスコナにも滞在し、ユングが晩年を過ごしたユングの家にも行ってみよう。今はそこが博物館として公開されているようだ。そして、シュタイナーが晩年を過ごしたドルナッハにも足を運んでみようかと思う。今年の夏はスイスでゆっくり過ごすことにする。アイスランド、スコットランド、アイルランドに行くのはまた来年にしようかと思う。フローニンゲン:2020/3/2(月)20:05

時刻は午前6時を迎えた。いつも日記や作った曲には曜日を記入しているのだが、昨夜はふとその日が何曜日だかわからなくなっていた。昨日が月曜日であったことがにわかには信じられないが、月曜日だったので今日は火曜日ということになる。

今日は午後から、かかりつけの美容師のメルヴィンの店に行く。いつも6週間に一度髪を切ってもらっており、メルヴィンとの会話はいつも楽しみだ。髪が伸びてくると洗髪や乾燥が面倒なので、今後は5週間に一度髪を切ってもらうことにしても良いかもしれない。本日髪を切ってもらった後に次回の予約をする際にはそうしよう。次回はアテネ旅行から帰ってきたあたりのタイミングになるだろう。

このところは日記の執筆よりも読書や創造活動に力を入れている。おそらく今の時期はそれで良いのだろう。日記を書きたくなくなったときに書きたいだけ書けば良い。この一連の日記は他者に読んでもらうことを前提にしていないのだから、もう少し自分の探究内容について踏み込んで書いても良いかもしれない。特に作曲理論についてや、作曲実践を通じて得られた身体感覚について記述していくことを検討する。

それでは今朝方の夢について振り返りをし、その後に早速早朝の作曲実践に取り掛かりたい。夢の中で私は、父が運転する車の中にいた。今車を走っている場所は日本ではなく、どこかの外国である。過ぎ去っていく車の様子を見ると、一様に右ハンドルであったから、国の絞り込みができるが、それがどこかはわからない。ひょっとすると、イギリスかもしれない。

イギリスのような雰囲気を出す海沿いの山道を、父が運転する車に乗っており、父と談笑しながらドライブを楽しんでいた。対向車が私たちの車にぶつかりそうな位置を走ってくるのが気になっており、何台か対向車とすれ違った後に、本当にある一台の対向車とぶつかりそうになってしまった。

父はとっさにハンドルを切り、私たちの車は道の外の砂利道に落ちた。車道に戻ると危険のように思えたので、私たちはその砂利道を走ることにした。すると、砂利道の先に、白と黒の色をした階段があり、車はその階段の中に吸い込まれていき、私たちの身体は階段の上にあった。最初父と私は戸惑ったが、どうやらその階段は車を上に運んでくれるらしかった。私たちはその階段を上って行

---



---

き、階段の中腹で大柄なアフリカ系の外国人とすれ違い、挨拶を交わした。階段を上ってみると、そこは水族館になっていた。せっかくなので父と私は水族館を楽しむことにした。

チケットを購入し、早速中に入ってみると、そこには珍しい生き物たちがいた。父は少し急ぎ足で水族館を回ろうとしていたが、私はせっかくなのでゆっくり楽しもうと提案した。ある部屋にワニやウツボがいて、私はまずウツボの泳ぐ姿に釘付けになっていた。ウツボの後ろから別の大きな魚がゆっくりと泳いで来て、ウツボと横に並びながら泳ぐ姿は微笑ましかった。ウツボが入った水槽の横の水槽には綺麗な小魚がいた。しかし不思議なことに、小魚のうちの何匹かが水槽から外に出て、地面で何かを食べていた。見ると、彼らは砂糖菓子のような塊を一生懸命食べていた。

すると横にいた父が口を開き、どうやら父が持っていた砂糖菓子の塊が水槽のガラスにぶつかってしまい、ガラスにヒビが入り、そこから魚たちが外に出て、その砂糖菓子を食べ始めたとのことだった。私はしばらく外に出た魚たちの様子を見守り、大丈夫そうだったのでその場を後にした。

水族館の周りにはその他にも美術館や日本庭園などがあったので、父と私は次に日本庭園に向かった。その途中、レストランがたくさんある場所を通り抜けていくと、レストランで少し休憩をしてから日本庭園に行こうかということになった。休憩と言ってもそこで長居することは考えておらず、私たちはレストランで飲み物だけを注文し、ひと口、ふた口飲み物をレストランの中で飲み、残りは外で歩きながら飲むことにした。

飲み物の支払いを父がしようとしたところ、会計を担当した女性は日本人だった。その方は驚くほど小さく、見た目はとても若かった。親切にもその方が、この周辺の観光名所を私たちに教えてくれた。ちょうど今から行く予定の日本庭園も見所がたくさんあるとのことだった。

今朝方はそのような夢を見ていた。実はその他にも夢を見ており、それは午前3時に目覚める前に見ていたものだ。今朝方は珍しく二度寝をし、起床した午前5時前に見ていたのが上述の夢だ。午前3時に目覚めた時の夢も肯定的な感覚を持つものだったと記憶している。夢の中の自分が、覚醒状態の自分と同じように、夢の中で身体感覚に意識を向けることはまだできていない。フローニンゲン:2020/3/3(火)06:32

またしても親友のメルヴィンが人生の新たな方向を私に与えてくれた。そんなことを思う。

今日は午後にかかりつけの美容師のメルヴィンの店に行き、髪を切ってもらった。いつもは様々な話題について話すのだが、今日は本当にダンスのことだけを話した。

以前言及したように、メルヴィンは17歳からダンスを始め、今でもダンスを行っている。以前はダンスの先生をしていたそうであり、美容師の仕事だけではなく、仕事のない日はボルダリングジムの2階にあるダンススタジオでダンスを教えることも計画しているそうだ。

以前はメルヴィンにボルダリングを紹介してもらい、ボルダリングを始めた。冬の時期は天気が悪く、ジムに行くことから遠のいており、ここ最近はおっぱらウォーキングやジョギングを楽しんでいた。だが、今日のメルヴィンとの会話によって、ダンスを本格的に始めようと思った。ダンスと言っても様々な種類がある。私が始めようと思っているのはExpressive Artとしてのダンスであり、仮に近いものを挙げるとするならば、シュタイナーの提唱したユーリズムに近い。

ここ最近では意識状態や身体感覚の開発に関する探究に力を入れていた。いかなる能力領域・知性領域においても、身体意識というのが極めて重要であり、それは高度な抽象思考を伴う数学や哲学、さらには音楽を含め、いかなる領域も微細なものを把握し、それを身体感覚を伴った形で操作するということが不可避に要求されることに注目をし始めていた。端的に言えば、いかなる領域においても、その領域内における能力・知性を開発していく際に、身体感覚を涵養していくことが鍵を握る。これは様々な学説や研究結果を見てきた末に行き着いた一つの結論である。

学習や実践において、意識の状態を整えること、ないしはその学習や実践にふさわしい意識状態に参入すること、そして学習や実践を通じてその領域固有の身体意識を開発していくことが、当該領域内における発達をもたらすことが明確なものになり始めている。

手応えのあるそのような発見事項を意識することがこのところでは多く、身体実践を見直そうと思っていた矢先に今日のメルヴィンとの会話があった。メルヴィンとの会話の間は四六時中彼にダンスについて質問をしていた。ダンスであれば自宅でもできることがこの季節にとっては有り難い。幸い

---

なことに、ダンスの先生をしていたメルヴィンが今度ダンスの基礎を教えてくれることになった。メルヴィンのダンス哲学について話を聞くと、大変共感できるものであり、それは自分が作曲において大切にしていることとほとんど同じであった。

上述の通り、今私が関心を持っているのは特定のジャンルに括られるようなダンスではない。どちらかというところユーリズミーに近いものであり、自分の内奥を身体表現を通して自由に形にしていこうことに関心がある。

ここ数日を振り返ってみたときに、私はふと画家のポール・クレーに関心を持ち、この夏にスイスのベルンに行くことにした。その際に、スイスのバーゼル郊外にあるドルナッハの街を訪れ、シュタイナーの思想が学べる精神自由科学大学を訪問しようと考えていた。そこではシュタイナー思想に基づいた音楽、絵画、そしてユーリズミーが学べる。これはとても大きな偶然のように思える。何かの導きに違いない。そんなことを思わずにはいられない。

精神自由科学大学で学ぶのは、欧州永住権を取得した後にしようかと思っていた。さらには、博士課程をカリフォルニアのCIISかソフィア大学で取得した後にしようかとも思っていた。もしかすると、博士号を取得する前に精神自由科学のプログラムで1年、ないしは2年ほどシュタイナー思想と三つの芸術領域を包括的に学び、その後に博士課程に進学するのがいいかもしれないと思い始めている。いずれにせよ、この夏にドルナッハを訪れる際には、精神自由科学大学のアドミッション担当の方に連絡をし、プログラムについて直接話を伺ってみようと思う。フローニンゲン:2020/3/3  
(火)20:08

#### 5590. 踊りへの目覚め

私が中学一年生の時に、社会の資料集に掲載されていたイスラム神秘主義のスーフィズムにおけるズィクル(回転舞踏)の写真に釘付けになっていたことを以前言及したように思う。

ジョン・エフ・ケネディ大学に留学中、「変性意識」というタイトルのコースを受講していた際に、コースでお世話になっていた教授にスタニスラフ・グロフのホロトロピック・ブレスワークのワークショップを勧められ、コースと一緒に受講していた友人たちと一緒にパークレーで行われたワークショップに参加したことがある。その時に、呼吸と音楽を用いて強い変性意識を引き起こせることを体験として学

---

---

んだのだが、世界の様々な宗教やシャーマニズムの伝統において、ダンス的な身体運動を通じて変性意識を引き起こす儀式を取り入れていることが前から気になっていた。

中学一年生の時に、ズィクルというダンスが引き起こす特殊な意識状態に妙に関心を示していたことが、今私をダンスに向かわせている。サンフランシスコでヨガのインストラクターをしていた時も、緩やかなダンスの要素を取り入れたマインドフルネス・ムーブメントを中心に教えていた。あの時の私も、きっとダンスの何かに惹かれていたのだろう。今日親友のメルヴィンと会話をしたとことによって、何か一本の線につながったような感じがした。もちろん、引き続き作曲実践を創造活動の核に据えていくが、そこにダンスも加えようと思う。できればユーリズミーをきちんと学びたい。ディプロマを取得するほどでなくても、スイスのドルナッハにある精神自由科学大学で理論と実践を学びたいと思う。

親友のメルヴィンの話の中で、いくつか興味深いものがあった。メルヴィンは以前気功を習っていたそうであり、今でもダンスをしている最中に気を生成したり、気を練ったりすることを行っているそうだ。さらには、3週間前にダンスフェスティバルに参加した際には、自分よりも若いダンサーたちがたくさんいながらも、彼らの中で1人もメルヴィンを本気にさせるようなエネルギー量を持つダンサーがいなかったという話を聞いた。

メルヴィンは基本的に自由な表現としてダンスを楽しんでいるようだが、時々競技としてダンスコンテストのようなものに参加することもあるそうだ。メルヴィンの言葉を日本語に翻訳すれば、「ダンス対決」のような言葉になるだろうが、そうした対決においては、基本的に技術の差というよりも、エネルギー量の差が勝敗を分けるらしい。

私はそうしたダンス対決には興味はないが、踊り手のエネルギー量については関心があり、例えばダンスを2人、ないしは複数人で行うことはグループセラピー的な役割を果たすのではないかと思ったのである。例えば2人であれば、エネルギーの交換ワークという形を取ることができる。それはタントラヨガ的な形で、ダンスを通じてお互いにエネルギーを交換し、お互いの治癒と変容を支え合う。

メルヴィンと私はいつも髪を切る手を止めて、つつい話に熱中してしまうのだが、今日は髪を途中で切ってもらった後に、その場で一緒にダンスを少しばかりした。髪を切ってもらった後にも音楽

---

に合わせてまた踊った。そこでは単にお互いが自由に踊ることを楽しただけではなく、お互いの動きを幾分シンクロさせる形でエネルギーの交換現象が起こっていた。

フローニンゲン大学に在籍していた時、精神次元における種々のシンクロ現象を複雑性科学の手法を用いて研究していたのだが、その時の研究について思い出し、ダンスでもまさにそうしたシンクロ現象が身体次元及び精神次元の双方で起こっていることが大変興味深く思えた。

メルヴィンが店でかけてくれた音楽に基づいてダンスをすると、それはソマティックセラピーのみならず、ミュージックセラピーの要素も兼ね備えていると思ったのである。ダンスは治癒と変容のための1人称的な実践としての側面だけではなく、他者と共に踊ることを通じて2人称的な実践にもなりうること。その点も含めると、音楽に合わせて踊るダンスは治癒と変容実践として大変奥が深いと思わされた。

帰宅後、早速ユーリズミーについて調べてみると、クラシック音楽の名曲に合わせてステージパフォーマンスをしている動画を見つけた。私がまず見たのは、ベートーヴェンのピアノソナタのある曲に合わせて踊るものだった。その踊りが実に優雅であり、伸びやかであり、そして自由であることに大変感銘を受けた。その動画を見て、明日からは朝のヨガをユーリズミーの踊りに代えようと思った。早朝のその瞬間の気分に合うようなピアノ曲を選び、その曲の流れに従う形で踊ってみる。早朝、夕方、就寝前の3回ほど踊ってみようと思う。

メルヴィンにダンスの基礎を教えてもらったので、今夜早速踊ってみる予定だ。その際には、上記の動画を参考にして、クラシック音楽のピアノ曲に合わせて踊ってみる。明日以降は、他のジャンルのピアノ曲や、ピアノ曲だけではなく、幅広く様々な音楽ジャンルの曲に合わせて踊ってみようと思う。これであれば天気が悪い日でも自宅で楽しみながら体を動かすことができる。そして何より、ダンス中に呼吸と身体の内側に意識を向けることは、自分の身体意識を涵養する上で大きな役割を果たすだろう。フローニンゲン:2020/3/3(火)20:38

#### 5591. 4月に購入予定の書籍

先ほどの日記で書き留めたように、今夜からは就寝前の30分ほどの時間を使って、静かなピアノ曲に合わせて踊りを踊ってみようと思う。その時には、ヨガや気功、あるいは太極拳的な動作を意識

---



---

し、自分の身体エネルギーを高めることを意識する。踊りそのものが治癒と変容に向けた実践になるようにし、エネルギーワークとしてダンスをする。その時に、自分のためだけに踊るのではなく、ここ最近入浴中・仮眠を取る前・就寝前に行っている遠隔ヒーリングのように、踊りを通じてある特定の他者の治癒と変容を促すことを意識してみようと思う。端的には、祈りとしての、そして遠隔ヒーリングとしての要素を入れた形で朝・夕方・夜に踊りを踊る。今夜寝る前に踊りをする際には、ベートーヴェンとモーツァルトの曲を流す。

明日からは、自分が作った曲に対しても身体を動かしてみようと思う。さらには、作曲中にも身体を動かし、文字通り、身体運動として作曲を行ってみよう。ここからは、ダンスを日々の実践に取り入れてみて、どのような変化が自分の心身に起こるのかを観察していく。さらには、ダンスを通じて特殊な意識状態に入っていく方法も探究していく。探究に関して言えば、4月にまた書籍を注文する際には、ユーリズミーに関する書籍を何冊か購入しようかと思う。3月に関する書籍の一括注文は、一昨日に20冊、昨日にポール・クレイの日記を購入したことにとどめ、4月に入ってからすぐに書籍の購入リストを再検討する。

今のところ、ユーリズミーに関する書籍、音楽理論に関する書籍(とりわけ20世紀以降のハーモニーと無調音楽におけるハーモニー)、シュタイナーの経済思想に関する書籍、伝統的な経済学の枠組みにおける経済思想の歴史、精神分析と組織行動及び社会(政治と経済)、などの領域の書籍を購入しようと思う。購入予定リストに追加するのは今のところ下記のような書籍であり、それらを日を改めて再吟味する。

### ユーリズミーに関する書籍

- Audacious Euphony: Chromatic Harmony and the Triad's Second Nature
- Eurythmy, Its Birth and Development
- The Zodiac Gestures in Eurythmy
- Eurythmy Movements and Meditations: A Journey to the Heart of Language
- Eurythmy: Rhythm, Dance and Soul (Rudolf Steiner's Ideas in Practice Series): Chapter "Eurythmy as a healing tool" is interesting

- 
- Come Unto These Yellow Sands: Eurythmy, Movement, Observation, and Classroom Experience
  - Eurythmy Therapy
  - The Early History of Eurythmy (Collected Works of Rudolf Steiner)
  - Introductions to Eurythmy: An Extension of Goethe's Morphological Thinking Within the Realm of Human Movement: Volume 1, 2nd Edition
  - Introductions to Eurythmy: An Extension of Goethe's Morphological Thinking Within the Realm of Human Movement: Volume 2, 2nd Edition
  - The Physiology of Eurythmy Therapy
  - Eurythmy Forms for Tone Eurythmy

#### 音楽理論に関する書籍

- The Schillinger System of Musical Composition in 2 volumes by Joseph Schillinger
- Twentieth-Century Harmony: Creative Aspects and Practice 4th Revised ed. Edition
- The Structure of Atonal Music
- Other Harmony: Beyond Tonal and Atonal
- Self-Similar Melodies

#### シュタイナーの経済思想・社会思想に関する書籍

- Rethinking Economics: Lectures and Seminars on World Economics (Collected Works of Rudolf Steiner): 14 lectures in Dornach, July 14–August 6, 1922 (CW 340) 6 seminars in Dornach, July 31–August 5, 1922 (CW 341)
- Social Threefolding: Rebalancing Culture, Politics & Economics – An Introductory Reader
- The Fundamental Social Law: Rudolf Steiner on the Work of the Individual and the Spirit of Community
- The Social Question: A Series of Six Lectures by Rudolf Steiner given at Zurich, 3 February through 8 March 1919 (Bn/GA Number 328 in the Bibliographical Survey, 1961)

#### 伝統的な経済学の枠組みにおける経済思想に関する書籍

- The Oxford Handbook of Philosophy of Economics

---

## 精神分析と組織行動及び社会(政治と経済)に関する書籍

- The Psychoanalysis of Organizations (Routledge Mental Health Classic Editions)
- Organization in the Mind: Psychoanalysis, Group Relations and Organizational Consultancy
- The Unconscious at Work
- The Systems Psychodynamics of Organizations: Integrating the Group Relations Approach, Psychoanalytic and Open Systems Perspectives
- Psychodynamic Organisational Theory
- The Good Society and the Inner World: Psychoanalysis, Politics and Culture
- Psychoanalysis, Society, and the Inner World
- Psychoanalysis, Class and Politics
- Visual Politics of Psychoanalysis: Art and the Image in Post-Traumatic Cultures

フローニンゲン:2020/3/3(火) 21:14

### 5592. 志向性を持つ心身:組織や社会の病理に関する探究の新たな方向性

時刻は午前5時半を迎えた。今朝の起床は午前4時半だった。

昨日の日記には、早朝のヨガの代わりに、何かしらのピアノ曲に合わせてダンスを踊ることをしようと書き留めていたが、やはりヨガの実践は心身をゆっくりと目覚めさせる効果があるため、ヨガをまず行うことにした。厳密には、バランスボールで背中を中心に筋肉をほぐした後、火の呼吸をしながら瞑想を少々行い、そこからいつものアーサナを行うということをした。その後、先日見つけた和を感じられるピアノ曲に合わせてゆっくりとダンスを踊った。それはさながらユーリズミーの動きであり、同時に私が以前ヨガスタジオで教えていたマインドフルネス・ムーブメントのようでもあった。さらには、太極拳のような動きも多少なりともあったと思う。

踊ってみてすぐに感じたのは、自分の内側に意識を向け、身体の望む方向に、つまり身体意識の声を聴き、身体エネルギーの向かいたい方向に体を動かすことによって、身体の調整と治癒が行われたように思う。時間としては短かったが、それでもそうした効果を実感することができた。

---

---

昨日、美容師かつダンサーでもある親友のメルヴィンとの会話でも話題になったが、踊りにはインナーロジックというものがある。メルヴィンはそれを「フロー」という言葉で表現していたように思うが、私たちの身体には内在的な流れがあり、それには固有のリズムがある。そしてそのリズムを生成しているのが目には見えないインナーロジックと呼べるものだと思う。インナーロジックと呼ぶとわかりにくいかもしれないが、漢字表記をすれば、それは「内的法則性」とでも呼べるものだろうか。いずれにせよ、音楽を聴きながら踊りを踊ろうとすると、頭で考えるよりも先に体が向かいたい方向に動いていく。身体が動きたい方向に、身体エネルギーが流りたい方向に流れていく様は大変興味深い。

内的法則性というのは何も踊りの中だけに現れるのではなく、他の実践で言えば、作曲中においてもそれを感じる。曲を作っている最中には、ある音を楽譜上に配置すると、その音が向かいたい方向性、ないしは志向性というものを持っており、それに応じて曲を作っている。そしてそれは作曲に留まらず、私は自分の人生を歩む上においても、固有の志向性に沿っているように思う。

先日、オックスフォード大学出版から出版された現代現象学に関する書籍を読んだ時、「志向性」という言葉と出会い、それが今このようにしてダンスや作曲、そして人生に紐付き始めた。

私たちの意識には、どうやら何かに向かおうとする性質があるらしい。そのような性質を考えてみた時に、精神的な病や身体の不調の背後には、こうした志向性の歪みがあるように思えてくる。当然ながらそうした病理の原因は多岐にわたり、そしてそれらは錯綜した形で結びつきあっている。だが、根幹には身体があるべき方向に自由に動けなくなることや、精神が何かにがんじがらめにされてしまい、精神が望む方向に動けないことが心身の病を引き起こすことにつながるように感じる。

先ほど、自分の体が動きたい方向に体を動かし、エネルギーが向かいたい方向にエネルギーを流すように踊ってみると、心身に調和がもたらされた。表現の形式はなんでもいいが、このように、自分の内側の内的法則性を感じながら、自由に身体意識とエネルギーを動かしていくことは、心身の治癒において重要だろう。

以前から感じていたことではあるが、個人や集合の病理は、エネルギーの歪みや停滞と密接に関係している。そうした歪みを治癒する上でも、今行っている実践や関心は重要だと思われる。

---

まずは作曲とダンスを切り口にして、個人の心身のエネルギーの歪みを治癒する道を探求していこう。これまでダンスセラピーの枠組みを参照することはなかったので、昨日リストアップした購入予定の書籍リストに、ダンスセラピーの書籍も何冊か追加しよう。また、個人を超えて、依然として組織や社会の精神的病理にも関心がある。これまであまり気がつかなかったが、組織や社会が集合意識を持つということは、それに対応させて、何かしらの身体的なものを組織や社会も持っていると考えられるのではないだろうか。つまり、集合的な身体、ないしは社会的な身体といものである。

インテグラル理論で言うところの、右下、つまり制度的な歪みや病理にも関心はあるが、今はとりわけ左下の集合の精神的な次元における歪みや病理に関心がある。ただし、集合的・社会的な身体という概念を用いれば、右下象限にも関心があることになる。このあたりも何か参考文献がないか調べ、現代精神分析の観点を用いた組織・社会の病理に対する探究に合わせて、組織・社会の身体的な歪みについても探究をし、現在関わっている組織に対して何かしらの処方箋を提供できるようになればと思う。フローニンゲン:2020/3/4(水)05:53

#### 5593. リアリティを構成するリズム:ダンスセラピーと個人と集団のサイコダイナミクスに関する書籍

時刻は午前7時を迎えようとしている。今、小鳥たちが清澄な鳴き声を上げていて、それに耳を澄ませている。小鳥たちも鳴き声を上げたい時に鳴き声を上げ、体が動きたい方向に体を自発的に動かしている。それが彼らにとって自然体なのだろう。はて、私たちにとっての自然体とはなんであろうか。自分自身の自然体というのはどのようなものであり、それを喪失してしまっていないだろうか。そのような問いが浮かぶ。

感情という英単語が“emotion”と表記されているように、感情というのはエネルギー(energy)の動き(motion)であることが見えてくる。また、感動が“moving”という言葉で表現されるように、感動の背後には動きがある。

先日は、クラニオセイクラル・バイオダイナミクスの書籍を随分と読んでおり、身体の内側、物質次元においては脳や臓器には固有の動き、ないしはリズムというものがあることがわかる。呼吸にも固有のリズムがあるのだ。そうしたことを考えていると、このリアリティは動き、あるいはリズムで構成されているのかもしれないと思うほどだ。そしてリズムの背後には絶えず音楽的な何かが存在しているであ



---

ろうから、このリアリティは音楽であると言えらるかもしれない。昨日、親友のメルヴィンとそのようなテーマについても話をしていた。

起床直後のヨガの後に、和を感じさせるピアノ曲を聴きながら自己表現的なマインドフルネスダンスをした。一通りそのCDの曲に対して踊りを踊ったら、今度はベートーヴェンのピアノソナタの第1番から32番までに対して踊りを踊ってみる。その後、バッハの平均律クラヴィーア曲集の全曲に対しても同様に踊ってみる。

ピアノ曲に合わせて無心で踊るといふのはなかなか楽しい。左脳的な思考を抑え、逆に右脳的な感覚を活性化させる形で無心で踊ることの効能を早くも感じている。日々の実践の合間合間には、ぼんやりと景色を眺める休憩を取るだけではなく、音楽に合わせて無心で踊るといふことも加えたい。今日から早速それを実践する。

早朝の日記の中で、ダンスセラピーの理論的な枠組みを学ぶために、そのテーマの書籍を購入する予定だと書いていたように思う。早速調べてみたところ、いくつか興味深い書籍を見つけた。下記の書籍は、アテネ旅行から帰ってきてから注文したいと思う。実際に踊ることが何よりも重要なのだが、踊りの効果やメカニズム、背景にある理論を他者に説明する必要性も今後出てくるであろうから、あまり多くはないが、少なくとも下記の書籍はすぐさま目を通しておこうと思う。

- ・Dance Therapy and Depth Psychology: The Moving Imagination
- ・Soul and Spirit in Dance Movement Psychotherapy: A Transpersonal Approach
- ・Essentials of Dance Movement Psychotherapy
- ・The Art and Science of Dance/Movement Therapy
- ・An Introduction to Medical Dance/Movement Therapy: Health Care in Motion
- ・The Expressive Body in Life, Art, and Therapy: Working with Movement, Metaphor and Meaning
- ・The Embodied Self: Movement and Psychoanalysis
- ・Beyond Dance
- ・Making Connections: Total Body Integration Through Bartenieff Fundamentals

---

上記の書籍に関して興味深いのは、これらのいくつかの書籍が、学術書として定評のある Routledge という出版社から出されている点だ。私は、オックスフォード大学出版、ケンブリッジ大学出版の書籍を好む傾向にあり、分野によってはMIT出版にもこれまで随分とお世話になっていた。哲学書や思想書に関して、時に音楽に関してはイェール大学出版にお世話になることもある。Routledge出版に関しては、フローニンゲン大学で発達研究をしている時に随分とお世話になっていたように思う。もちろん、発達現象に関する書籍も出版していながら、教育などの分野においてもこの出版社は良書を出している。まさかダンスセラピーに関しても興味深い書籍を随分と出しているとは思わなかった。

上記の書籍に加え、先ほど、組織と社会の精神病理に関する書籍も購入予定のリストにいくつか加えた。私が以前師事をしていたオットー・ラスキー博士は晩年に、意識構造への関心よりも、精神分析的なサイコダイナミクスに関心を持っていたことをふと思い出した。今の私もまさにそちらに関心がシフトしている。しかも個人の精神病理やサイコダイナミクスだけではなく、組織や社会にまで視野を広げた関心が自分の中に芽生えている。その背景には、自分自身が学校や組織、そして社会の中で随分と精神的なトラウマのようなものを患ってきたことがある。端的には、自分のシャドーがそうした領域に関心の矢を向けているのだと思われるが、同時に、やはりこの社会の歪みや病理へ介入していくことが自分の一つの役割であるという認識もある。

この社会には、政治や経済による犠牲者で溢れており、自然災害だけではなく、オリンピックの開催などを含む社会的なイベントによっても簡単に精神的なトラウマが引き起こされてしまう社会に私たちが生きているという認識と危機意識のようなものがある。この領域における探究と関与を行っていくこともまた自分に与えられた役割のように思えてくる。このテーマについては、昨日列挙した書籍以外にも、下記の書籍も購入してみようと思う(この分野においては、やはりタヴィストック研究所出版が強いようだ)。

・Culture and Psychopathology: The Anthropology of Mental Illness

・The Routledge International Handbook of Military Psychology and Mental Health (Routledge International Handbooks)

・Workplace Trauma: Concepts, Assessment and Interventions

・Managing Trauma in the Workplace

- 
- Psychopathology: A Social Neuropsychological Perspective
  - Trauma and Recovery: The Aftermath of Violence--From Domestic Abuse to Political Terror
  - Thought Paralysis: The Virtues of Discrimination (Exploring Psycho-Social Studies)
  - Trauma and Organizations (The New International Library of Group Analysis)
  - Leaders, Fools and Impostors: Essays on the Psychology of Leadership
  - Organizations in Depth: The Psychoanalysis of Organizations
  - The Psychoanalysis of Organizations: Psychoanalytic Approach to Behaviour in Groups and Organizations
  - The Good Society and the Inner World: Psychoanalysis, Politics and Culture
  - Ideology, Conflict, and Leadership in Groups and Organizations
  - Psychoanalytic Studies of Organizations: Contributions from the International Society for the Psychoanalytic Study of Organizations (ISPSO)

フローニンゲン:2020/3/4(水)05:53

#### 5594. 今日のダンス実践と作曲実践: パターン認識に適した意識状態の生成と コラージュ的作曲実践

時刻は午後の7時半に近づきつつある。今日は、ほんの一瞬だけ小雨がばらついたが、総じて晴れた1日だった。そのおかげで、室内で十分な日光浴を楽しむことができた。

昨夜からダンスの実践を始め、今日はパッヘルベルの「カノン」、リストの「無調のバガテル」をかけながら踊りを楽しんだ。言語を司る脳の活性化を抑え、まるで長時間の瞑想の後の深い意識状態、あるいはフローのような状態で、音の流れに身を委ね、純粹に身体を動かすことを楽しんでいた。

リストが先進的に作った「無調のバガテル」を聴きながら踊りを踊ってみると、無調の曲は独特な身体感覚を喚起することを発見した。それは調性の音楽にはない感覚であった。その他の気づきとしては、曲を理解するというのはつくづく身体運動的な行為なのだということである。明日からも踊りを踊りながら一つ一つの曲を身体感覚を通じて掴んでいき、その感覚を作曲に活かしていこうと思う。

---

音楽を聴きながらその曲を内側から感じる力は、幾何学や数式をありありとした身体感覚を通じて把握する力と似ている。偉大な数学者はきっと、身体感覚を通じて数学宇宙を知覚し、自らの微細な身体を通じて数学宇宙で諸々の思考的操作を行っていたのだろう。

今週末の日曜日は、映画を見ることに加えて、ピアノ曲をかけながら長めに踊り、身体の調整とエネルギーの充填をしようかとふと思った。自分の身体がそれを欲しているらしい。

今日よりもさらに時間を多く取って踊りを踊ると、ほぼ間違いなくトランス状態に入っていくことが予想される。シャーマン的な意識状態に参入し、そこで自他ヒーリングの実践を行ってみようかと思う。踊りを純粋に楽しむことに加えて、自らの気の生成・エネルギーの涵養と、自他ヒーリングを組み合わせせていく。

昨日、作曲技術を高める方法と将棋の棋力を高める方法は似ているかもしれないと思い、将棋の棋力を高める方法を参考にしてみることにした。記譜の分析を楽譜の分析と見立て、今の私は、序盤と終盤の打ち手を特に研究していく必要があると思った。中盤は音の選択と配置の可能性が爆発的に増えるため、とりあえずは置いておく。まずは序盤と終盤に関して、自分なりの型を構築していこう。そして型を複数持ち、いずれはその型を手放す形でそれらを変容させていき、また新たな型を産んでいく。そのプロセスを延々と繰り返していく。

ここ最近では意識状態の探究と実践が進み、作曲をする際の意識状態が整っている。特に、パターン認識に適した意識状態を作ることがうまくできるようになってきている。構造的パターンの把握と、把握されたパターンを脳内で瞬時に組み合わせたり、新たなパターンを作っていく訓練を引き続き続けていこう。

数日前から作曲の理論書を改めて読み返している。ここからしばらくは、また理論書にお世話になる。書籍に記載されている一つ一つの概念を活用するために、シンプルなCメジャーを選択し、実際にそれらの概念を適用する形で短い曲を数多く作っていこう。バッハの4声のコラールや2声のコラールはそうした実践にうってつけの題材だ。実際に今日は、複調や複旋法を活用するために4声と2声のコラールを題材にして曲を作っていた。明日もまたこの実践を行ってみよう。

---

さらに、理論の学習をより深めていくために、理論書の譜例をコラージュ的に組み合わせ曲を作っていくことも明日から本格的に行い始める。本日届いたスケールとメロディーの百科事典に掲載されているスケールやメロディーをそこに散りばめていくかのように適用してみるのも面白いだろう。コラージュ的な作曲のヒントとして、敬愛する故ニッサン・インゲル先生のコラージュ画の制作方法を参考にしていこう。

今日もまたとても充実した1日だった。今夜も就寝前に、リラックスしたピアノ曲をかけながらひと踊りしよう。フローニンゲン:2020/3/4(水) 19:38

### 5595. 世界の民族舞踏への関心:ボディ・マインド・センタリングの再探究

時刻は午前6時半を迎えた。ここ最近では、この時間帯になるともう空がダークブルーに変わるようになった。気温はまだまだ冬のそれだが、日の出時間は着実に春のそれになりつつある。日没に関しても同様であり、夕食の準備をする時間帯においても空が明るくなってきたのは喜ばしい。寒さが残っていたとしても、暗い冬の出口はもうすぐそこだ。

先ほども音楽に合わせて少しばかりダンスを踊っていた。今日からは、グールドカリヒテルの演奏するバッハの平均律クラヴィーア曲集に合わせて踊ろうと思っていたのだが、直感的に今朝は、レオナルド・ダ・ヴィンチが作曲した音楽に合わせて踊った—ダ・ヴィンチは作曲もしていたのである。それは笛のような楽器とチェンバロによって演奏されているものだった。曲が変わるごとに曲の表情や雰囲気が変わり、それに応じてダンスが自発的に変化していく様を見てとった。

ダンス中には呼吸を意識することもあり、私にとっては瞑想よりも素早く変性意識の状態になることも判明しつつある。ユーリズミー的なダンスを踊り始めたこともあり、早速書斎の本棚にあるシュタイナー教育に関する書籍を引っ張り出してきて、ユーリズミーに関する記述に目を通していたのは昨日のことだった。今日も少しばかりユーリズミーについて文献調査をしよう。ダンスセラピーに関する書籍を一括注文するのは来月だが、今後はダンスの歴史などについても学びたい。世界には多種多様なダンスが存在しており、その歴史を辿っていくことは面白そうだ。また、今後は世界を旅する中で、そこにある美術館や博物館、そして自然を満喫するだけではなく、その地域固有のダンスがないかにも注目をしたい。ダンスの講演会などに足を運んでみるのもいいだろう。



---

今月末のアテネ旅行の際に、ギリシャの文化や歴史と結びついた踊りがないかを調べ、アテネ市内でダンス公演が開催されていればそれに参加してみようかと思う。そのように書き留めて早速調べてみたところ、古代ギリシア時代から伝統的な踊りが存在しているらしく、民族舞踊としてシルトス、カラマティアノス、ピリッキオス、ハサピコ、シルタキといった踊りがあることを知った。それらがギリシャ社会で担ってきた意味や社会的機能にも関心があるが、意識の変容という観点からそれらの踊りを眺めてみようかと思う。

踊りがもたらす心身への好影響を早速感じている。起床直後のヨガの後に踊りを踊り、日中も休憩がてら音楽に合わせて無心で少々踊り、夜も寝る前に静かな曲をかけながら踊っている。それにより、明らかにグロスボディにおける血流の流れが良くなり、それがサトルボディへも良い影響を与え、それがさらにコーザルボディにも良い影響を与えていることを実感する。そして何より、日中の活動に対する集中力がさらに高まった感覚があり、学習や実践に適した意識状態を長く維持できているように思う。学習や実践をする際には、兎に角にも脳の状態と意識状態が鍵を握るため、踊りがもたらすそうした好影響は大変喜ばしい。

近々届く、マイケル・マーフィーの名著“The Future of the Body: Explorations Into the Further Evolution Of Human Nature”にも、ダンスと心身及び意識状態に関する論文が納められていたように思うので、書籍が届き次第、その論文に目を通そう。ジョン・エフ・ケネディ大学時代にはヨガ以外にも、種々のボディワークを学んでいた。その中でも、元ダンサーの知人から教えてもらったBonnie Bainbridge Cohenが開発したボディ・マインド・センタリング (Body-Mind Centering) は印象に残っている実践技法である。残念ながら、この技法に関する書籍は全て実家に置いているが、今度一時帰国した際には、この技法について学び直してみようと思う。そしてこの技法を日々のダンス実践の中に取り入れてみよう。フローニンゲン:2020/3/5(木)06:57

#### 5596. 現代精神分析学の探究に向けて:家畜化・ゾンビ化する人間

個人・組織・社会の無意識に関する関心が日を迫うごとに高まっている。その関心を深めていく際に、古典的な精神分析学の観点だけではなく、現代精神分析的な観点を採用していく。英語空間に堆積されている学術的知見を眺めてみると、日本で研究が止まってしまっているような精神分析学とはまた違った様相を持つ精神分析学の研究と実践がなされていることに気づく。

---

来月書籍を一括注文する際には、現代において研究が進められている精神分析学に関する学術書を数冊ほど購入する。また、応用精神分析学として、組織や社会の精神病理に対して精神分析学を適用し、それについて解説している書籍も数冊ほど購入する。

そういえば、一昨日は寝る前に少しばかり考え事をしていた。それは格差に関するものである。経済格差や教育格差よりも、もっと悲惨な格差が現代社会に見え隠れし始めているように思えるのは私だけだろうか。端的には、それは人間なるものとそうでないものを分ける格差である。

生物としての人間の進化を眺めてみると、そこには発達の原因である非線形的(非連続的)かつ線形的(連続的)な発達プロセスが見られる。現代においても、着実に進行する人類の進化のプロセスを見てとることができるが、その進化の方向性は幾分怖く思えてしまう。それは進化というよりも下手をすると退化のように見えなくもない。だが、確実にどこかに向かって進んでいるとすれば進化なのだろうが、それは多分に歪な進化である。端的に述べると、人間がますます家畜化され、さらにはゾンビ化されている現象が顕在化し始めている。

人間と家畜が混合した生き物は世界のどこにでも溢れているが、日本にはそこにゾンビ的な生き物が混在している割合が多いように思えるから事態はとても不気味である。人間・家畜・ゾンビが混じり合った生物を昨年一時帰国した際によく見かけた。特にその生物は東京に多く生息していたことをはっきりと覚えている。それは戦慄をもたらすものであった。さらに、そこでは同質性の論理が働いており、家畜化された人間は周りの家畜化した人間に気づかず、ゾンビ化した人間は周りのゾンビ化した人間に気づかないということがどうやら起こっているらしい。そうした形で家畜化した人間とゾンビ化した人間が、東京に随分と蔓延していることに戦慄を覚えたのは昨年のことだった。

我が国の首都は、このままだと死都になってしまうのではないかという危機感がある。今蔓延しているコロナウィルスの民衆の反応を見ても、それは知性を持った人間が行うような反応では決してなく、自らの頭で考え、行動するような自律的・自己内省的知性を持つ者が行う反応ではない。端的には、純朴・従順な家畜のそれである。

コロナウィルスがあとどれくらいで落ち着いてくるのかは未知だが、それが落ち着いた頃にはオリンピックが東京で開催される。政治経済的に仕組まれたこの祭りの開催の際には、また家畜的・ゾンビ

---

的な熱狂的反応をするのが多くの国民だろうか。人間としての知性を兼ね備え、それを育てていく者と、知性を腐敗させ、家畜化・ゾンビ化の道を歩む者との二極化現象及びそれに伴う格差現象が今後ますます進展していくであろうことは、現代に突きつけられている人間として生きることに関する大きな社会課題のように思える。フローニンゲン:2020/3/5(木)07:21

### 5597. 不思議な縁:Yantraという店

時刻は午前7時半を迎えようとしている。小鳥たちが清らかな鳴き声を上げている。

風はほとんどなく、とても穏やかな雰囲気、朝のフローニンゲンを包んでいる。今朝は空に雲がなく、とても清々しい。この感覚を存分に味わいたい。

昨日、ドイツの書店から何冊かの書籍がまとめて届けられたのだが、それを受け取ることができなかった。事前にどの時間帯にUPSがやって来るのかの連絡をメールで受け取ったので、その時間帯に合わせて部屋の呼び鈴をオンにしようと思っていたのだが、連絡よりも早くUPSが来たらしく、不在届が郵便受けに入っていた。

届けられた書籍は、街の中心部のUPSセンターが預かっているとのことであり、近々そこに足を運ぶ必要がある。その場所を調べてみると、偶然にも、以前から気になっていたYantraというショップの真ん前だった。このショップでは、世界の様々な宗教に関するグッズや、ヨガや太極拳などに関するグッズが販売されている。確か以前は、アロマキャンドルでもここで購入しようかと考えていたのではなかったかと思う。

今自宅には、数年前に東京に1年間滞在していた時に知人からもらったクリスタルがあり、それを書斎の窓際に飾り、太陽の光や月の光を反射させ、その光を部屋にもたらしようにしている。Yantraではクリスタルも販売されており、さらに追加で何かクリスタルを購入しようかとも考えたが、今あるクリスタルで十分な気もしてきた。また、仏教の法具の一つとして、綺麗な音が響き渡るゴングにも関心があり、それを購入することも考えたし、密教曼荼羅の掛け軸(あるいは絵画)のようなものを購入することも考えた。前者に関しては、ゴング特有の音の浄化作用に関心があるのは確かだが、毎日どれだけそれを鳴らすかを考えてみた時に、購入を躊躇させるものがある。もちろん、それを鳴らす

---

ことを既存の習慣に組み合わせてしまえば、新たな習慣として確立されるのだが、実際にその音を店で聞いてみて、必要だと思えば購入をしたい。

密教曼荼羅の掛け軸ないしは絵画についても、今すでに原画2点とデジタル複製の絵画1点を部屋に飾っており、家に最初から備え付けてあった絵画が数点あることも考えると、これ以上絵画を飾るスペースがなさそうである。密教曼荼羅に関しても実物を眺め、自分の内側に響くものがあれば購入を検討しよう。今のところ、この店で購入したいと思うのは、手のひらに乗るような可愛い仏陀の人形である。

店のホームページを見ると、微笑んでいるような仏陀の小さな人形があるようなので、今のところそれは購入したい。書斎の机の上が置き場には一番ふさわしい場所だと思うが、いずれにせよ、仏陀の人間が微笑む姿が頻繁に目に入るところにそれを置こうと思う。

数年前にすでにこの店の存在を知っていながらも、これまで一度も訪れたことがなかったところに、突然このような機会が降ってきた。UPSの預かりセンターは、フローニンゲンの街にその他にもたくさんあるのに、今回その店に近い場所が指定先になったことは何かの縁だろう。そしてその縁の恩恵を授かる形で、Yantraで何かしらのグッズと出会うことになれば、それもまた縁のもたらす恩恵だと言わざるを得ない。ここ最近、自分の心身及び存在、さらには人生の流れがより良いものになってきていることを実感し、それに応じて不思議な縁を感じるが多くなっている。フローニンゲン：

2020/3/5(木)07:48

#### 5598. 身の回りに溢れる宗教的な品々：今朝方の夢とコラージュ的な曲

時刻は午後7時半を迎えた。早いものでいつの間にか今週も週末に近づいている。一応確認をしておくと、明日は金曜日だ。どうやら今夜から明日の午後にかけて雨が降るようだ。幸いにも土曜日は晴れとのことなので、ドイツから届けられた書籍を受け取りに、街の中心部のUPSセンターに行き、その足で買い物をしたい。食料を購入するだけでなく、今朝方の日記で書き留めたように、Yantraという店で、微笑む仏陀の人形(あるいは石像)を購入しようと思う。

---

ふと自宅の中を見渡してみると、フローニンゲン大学で知り合った中国人のシェンからもらった道教のお守りや、ヒンドゥー教に起源を持つヨガのグッズなどがあることに気づく。書斎の壁に掛かっているニッサン・インゲル先生の絵画には、キリスト教を彷彿とさせる天使が描かれている。

気がつくと、宗教的なものが意外と身の回りがあることに気づかされる。書物に関して言えば、仏教関係の書籍がいくつかあり、シェンからもらった中国語で書かれた論語のテキストもある。その他にも、イスラム教の神秘思想家のルーミーの詩集などもあることから、ほぼ全ての宗教に関する何かしらのものが自分の生活空間の中にあることがわかる。その他にも気がつくことはあるが、それまた別の機会に書き留めることにする。

そう言えば、今朝方は夢の振り返りをしていなかった。あと数時間もすれば就寝というところで今朝方の夢について思い出してみよう。

夢の中で私は、以前オンラインゼミナールに参加して下さっていた医師のある方と一緒にワークショップに参加していた。それは代替医療に関するワークショップであり、実際に気功を用いた治療を行ってみるという実践的な内容だった。私たちは一緒に気功の実習を行ったり、気功に関するテキストに関して意見交換をしていた。お互いに和やかな雰囲気で行っていたことを覚えている。

今朝方の夢で覚えているのはそれぐらいしかない。起床した時にもすでに記憶が薄れていたのだが、夢を見ていたという確かな感覚はあった。そして上記の夢にマスクングされる形で、一つ前により重要な意味を持つであろう夢を見ていたことを覚えている。その夢については何一つとして覚えておらず、今夜の夢の中で形を変えて現れて来るかもしれない。

今日の作曲実践では、理論書を片手に、コラージュ的な曲を作っていた。とにかく実践を通じて理論書の内容を理解することが大切であり、そのように学習を進めていかないと、技術の習得は実現しない。作られたコラージュ作品は誰に聴かせることも意図しておらず、また聴かれることも考慮に入れていない。だが、見る人が見れば、そこに音楽理論上の何かしらの概念や観点が散りばめられていることがわかるはずであり、教育的な効果を持たせるようにはしている。明日からも一つ一つの概念を実験的に曲の中に適用し、理論書の譜例を組み合わせる形で曲を作っていく。



---

今夜も就寝前に、何かしらの音楽をかけながら踊りを踊ろうと思う。今朝から聴き始めているダ・ヴィンチの曲をまだ全て聴いていないので、その続きを聴きながら踊ることにしよう。その際には、曲が生成されていく内在的な力を感じるようにする。言い換えれば、音の志向性を感じ、それを追いかけていくことを意識して踊る。

そのような形で曲の自律的な生成力を身体的に感じるができるようになってくれば、いつかより自発的に曲を生み出していくことができるだろう。誰しもが曲に内在するそのような力を大なり小なり感じ取ることができるのだから、あとはその知覚力を高めていく鍛錬をしていけばいい。思考を働かせず、曲の内側の内在法則と一体化する実践を続けていこう。その実践が、いつか今の自分では想像もつかない場所に自分を連れて行ってくれるだろう。フローニンゲン:2020/3/5(木)19:46

### 5599. 今朝方の夢

時刻は午前7時半を迎えた。もう辺りはすっかり明るくなっており、小鳥たちも元気な鳴き声を上げている。

日の出の時間が早くなり、今月末にアテネ旅行をしている最中の日曜日に、欧州はサマータイムに入る。3月末の最後の日曜日から10月末の最後の日曜日までがその期間となる。早いもので再びサマータイムの時期に近づいてきているのだなと感じる。人生における時の進行は、ゆっくりのようで早く、早いようでゆっくりだ。

今朝方は印象に残る夢を見ていた。それらの夢について振り返り、今日も創造活動、読書、踊りといった活動に従事していこう。

夢の中で私は、木造建築の大学の校舎の中にいた。それは欧州のどこかの国にある大学であり、外観も内観も歴史を感じさせるものであった。校舎のある小さな教室の中で、私は父と話をしていた。父と話をしていると、ひょんなことから、父が私の足の裏をマッサージしてくれることになった。

教室の片隅に、ちょうどヨガマットのようなものがあり、その上に寝転んで、私は父からマッサージを受けた。マッサージを受けている間も父と会話をしていて、数学の確率の問題について2人で話をしていた。どうやら父はここ最近、確率の問題に関心を示しているらしく、手元には大学入試用の問

---

題集があった。父と私は日本で同じ大学を卒業しており、母校の数学の問題は最後はほぼ必ず確率の問題であることを話した。

父がどのような確率の問題を解いているのか尋ねてみたところ、よくわからない用語が出てきた。そのため、使っている問題集を見せてもらったところ、その出版年は古く、昭和中期のものであった。その時代の問題集に関心が湧いてきたので、中身をパラパラと眺めていると、不思議な問題に出くわした。それは全て中国語で記載されており、どうやら中国のある名門大学で出題された問題のようだった。日本はいまだに科挙的な入試制度を持っているが、科挙といえば元祖は中国なので、中国でも日本と似たような入試問題が出題されるというのは納得ができた。

その後もしばらく問題集を眺め、今年の母校の入試問題を見たかを父に尋ねた。すると、父はまだ見ていないようだったので、数学を中心に今年の傾向を教えた。その中で、漸化式を組み立てて解いていく確率の問題があったことを伝えると、「漸化式？」と父は首をかしげ、父の時代にはそのような言葉がなかったのかもしれないと思い、その概念について説明をした。そこで夢の場面が変わった。

次の場面は一つの前の場面と連続しているようだった。というのも、私は同じ校舎にいたからである。今度は広い教室にいて、どうやら私はこの大学に入学したてであり、今からオリエンテーションが行われるようだった。周りには日本人は1人もおらず、生徒たちの国籍は多様だった。そして、多くの学生たちは自分よりも随分と若いように思えた。そんな中、1人ほど、幾分年配の男性がいることに気づいた。早速彼から自己紹介が始められ、彼の年齢は53歳とのことだった。彼はこれまで、アメリカ、中国、日本の大学を渡り歩いてきたらしい。

自己紹介の途中で私の存在に気づき、私に近寄ってきて流暢な日本語で話しかけてきた。私は直感的に、彼とであれば友達になれると思い、後ほどカフェかどこかで話をしようと思い、メールアドレスをサッと交換した。彼の自己紹介がひと段落ついた後に、今度は比較的若い女性が自己紹介を始めた。彼女は事前に、自己紹介のためにパワーポイントを作成しており、構成的にはよく練られた自己紹介を行った。しかし、話のリズムやテンポが単調であり、その場にいた全員は、あまり関心を持って彼女の自己紹介を聞いていなかった。そして次に私の番がやってきた。私は冒頭いきな

---

り、即興的な歌と踊りを交えながらユニークな形で自分の名前を紹介し、その場にいた全員を一気に引きつける形で自己を紹介を続けていった。今朝方はそのような夢を見ていた。

作曲技術を高めるための学習に関して、将棋の学習方法だけではなく、数学の学習方法を参考にすることがある。先日も数学の学習方法を参考にして、作曲技術を高める学習方法を見直していた。また、先日行われた国公立の大学の入試に関して、母校を含め、日本の難関大学がどのような問題を出題しているのかをざっと確認していた。どの大学も相変わらずと言えば相変わらずだと思ったが、数学と世界史の記述問題については、一瞬その場で問題を考えてみるということを行っていた。確かに今年の母校の数学の入試問題においては、漸化式を用いて解く問題が出題されていたのを覚えている。それが何らかの形で夢に影響を与えたのかもしれない。フローニンゲン：  
2020/3/6(金)08:04

#### 5600. 今週末の予定:グスタフ・レオンハルトとジローラモ・フレスコバルディ

時刻は午後8時を迎えた。今週もゆっくりと終わりに近づき、明日からは週末を迎える。明日は街の中心部のUPSセンターに行き、ドイツから送られてきた書籍を受け取ろう。不在届の紙を見る限り、数キログラムほどの重さになるようなので、その重さを覚悟しておこう。

書籍の受け取りの前に、行きつけのオーガニックスーパーで必要な食料を購入し、先日言及したYantraという店に行き、そこで微笑む小さな仏陀の人形を購入しようと思う。それは書斎の机の上にも飾り、ホッと一息つきたい時にでも眺めたいと思う。

今日はまた数冊ほど書籍が届いた。それらはイギリスから届けられたものであり、音楽と変性意識に関する書籍、CIISの教授でもあるディーン・ラディンが執筆した超心理学に関する書籍、そしてマイケル・マーフィーが編集した身体と意識に関する論文選集が届いた。こうした書籍が続々と届く中、来月に購入予定の文献リストにまたいくつかの書籍を加えた。具体的には、経済思想史に関する書籍を3冊ほど加え、その他には地下経済(underground economy)に関する書籍も追加した。アテネ旅行から帰ってきたら、購入予定の文献リストを再吟味し、必要な書籍を一括注文したい。

明日の予定については上述の通りであり、明後日の日曜日には、確定申告をしておこうと思う。オランダの個人の確定申告は、毎年4月1日までに行う必要がある。オランダで行っている事業に関して

---

---

は、お世話になっている会計士が四半期に1度、税務申告を私の代わりに行ってくれているのでとても楽だ。個人の確定申告に関しても依頼をすれば会計士がやってくれるのだろうが、申告は全く難しいことではないので、例年と同じように申告をする。今月末にはアテネ旅行が控えているので、今週中に速やかに確定申告を済ませておこう。

今夜はこれから少しばかり読書をする。午後9時ぐらいになったら読書の手を止めて、就寝に向けて身体をほぐす意味合いも込めて、曲に合わせて踊りを踊る。その時には、グスタフ・レオンハルトがチェンバロで演奏するバッハの曲を聴きたいと思う。レオンハルトはオランダの名チェンバロ奏者だった。数年前にすでにこの世を去っているが、彼の演奏及びその価値は今もなお永続し続けている。

レオンハルトはバッハの演奏で有名なだけではなく、ジローラモ・フレスコバルディ(1583-1643)という初期バロック時代の作曲家の曲も演奏レパートリーとして持っている。フレスコバルディというイタリア人作曲家についてあまり知らなかったのを調べてみると、後の作曲家に大きな影響を与えた偉大な作曲家だったらしい。実際に、あのバッハもフレスコバルディのオルガン曲集の楽譜を持っていたそうである。後ほど踊りを踊る際には、バッハの曲ではなく、レオンハルトが演奏するフレスコバルディの曲を聴いてみてもいいかもしれない。フローニンゲン:2020/3/6(金)20:18